

基本政策Ⅶ

いきいきと学び、活動するための環境をつくる

現状と課題

- ・社会を取り巻く環境が急激に変化する中で、地域の課題や市民生活が多様化してさまざまなニーズが生じており、生涯にわたって学習し、自己の能力を高め、地域のために活動する人材を育成するとともに、地域課題を学び、解決していくための市民活動を促進することが求められています。
- ・教育文化会館や各区市民館・分館において多様な学びの機会を提供するとともに、学びを通じて市民同士や団体同士をつなげ、新たな絆を創造することで人間関係を紡ぎ、豊かにしていくことが期待されています。また、地域の生涯学習の推進において中核的な役割を担うことができる人材を育成することが必要です。
- ・地域コミュニティの活性化に向けて若者からシニアまでの多様な世代の持つ力を活用するとともに、子育て世代の地域参加やシニア世代の生きがいにもつなげられるよう、地域社会への参加を支援する取組を推進する必要があります。さらに、年齢や性別、人種、障害の有無に関わらず、生涯を通じた学びの機会の提供や社会参加に向けた支援などを行う必要があります。
- ・図書館事業の充実については、近隣自治体と市立図書館の相互利用に関する協定を結ぶなど積極的に取り組んでいます。図書館施設以外での貸出・返却に対するニーズの高まりなど、今日の社会状況にあわせた市民サービスの向上に向けて検討していくことが必要です。
- ・市民による生涯学習や市民活動の場として学校施設を有効に活用するため、校庭や体育館、特別教室を開放して市民の生涯学習を推進しており、今後も地域の身近な場として、学校施設の有効活用をさらに促進していくことが必要です。

政策目標

市民の自主的な学びの機会を提供し、地域づくりにつながる学びや、学びを通じた出会い（「知縁」）を促進するとともに、地域における生涯学習の担い手を育成していきます。

市民の生涯学習の拠点となる教育文化会館・市民館及び図書館について、市民サービスの向上に向けた取組を進めるとともに、施設の長寿命化や学校施設の有効活用などを推進し、学びの場の充実を図ります。

主な取組成果

市民館において平和・人権学習や男女平等推進学習等、地域の課題や市民生活を学ぶ社会教育事業を実施するとともに、市民エンパワーメント研修でのボランティア育成など、市民が学びにより得た知識や経験等を活かす活動を促進することができました。また、市民自主学級や市民自主企画事業など、市民提案・協働での課題解決型事業を推進し、市民の力による地域の教育力とまちづくり力の向上を図りました。

利用の少ない特別教室の活用を推進するためのプロジェクト「Kawasaki教室シェアリング」をスタートし、学校利用のアイデア出しを行うイベントや、学校施設をワーキングスペースとして利用する試験的な取組などを実施しました。

宮前市民館・図書館の鷺沼駅周辺への移転・整備に向けた市民意見聴取等の取組を推進し、「新しい宮前市民館・図書館に関する基本的な考え方」を策定しました。併せて、社会状況の変化や多様な市民ニーズに対応するための「今後の市民館・図書館のあり方」の策定に向けて、基本的な考え方をまとめました。

参考指標

※ 基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的に行います。

指標名	実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3 (2021)
教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数	8.9万人 (H28 (2016))	8.7万人	6.8万人			9.1万人以上
教育文化会館・市民館・分館で実施する各種社会教育事業（学級、集会など、家庭教育振興事業は除く）に参加した人の数【出典：川崎市教育委員会事務局調べ】						
社会教育振興事業を通じて新たなつながりが増えた割合	70.4% (H28 (2016))	68.6%	56.7%			70.5%以上
教育文化会館・市民館・分館で実施する各種社会教育事業（学級、集会など、家庭教育振興事業は除く）を通じて新しい知り合いが増えた人の割合【出典：事業参加者アンケート】						
市立図書館図書タイトル数	84万タイトル (H28 (2016))	86万タイトル	87万タイトル			87万タイトル以上
川崎市立図書館全館の所蔵図書の全タイトル数。所蔵図書の多様性を表す指標【出典：川崎市教育委員会事務局調べ】						

指標名	実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
図書館の入館者数	409.4万人 (H28(2016))	387.0万人	386.2万人			437万人以上
川崎市立図書館全館（普閲覧所を除く）の入り口に設置している図書無断持出防止装置（BDS）による入館者数【出典：川崎市教育委員会事務局調べ】 ※平成30年度は図書館システム機器の更新のため、全館で長期休館を行いました。						

主な課題

持続可能で豊かな社会の実現に向け、市民の主体的な学びや活動の場として、時代に即し、地域課題や市民ニーズに対応した社会教育振興事業を継続して実施していくとともに、これらが地域づくりとつながるための仕組みを構築する必要があります。

体育館や校庭の利用状況を踏まえ、学校施設の有効活用を進めるため、利用の少ない特別教室などの活用を推進する必要があります。

労働会館を活用した川崎区の市民館について、全庁的な特定天井に関する取組と併せて整備を実施することとなり、変更した整備スケジュールに基づいて取組を進めることが求められています。

新宮前市民館・図書館の移転・整備に向けた取組を進めるとともに、教育文化会館と労働会館の再編等、老朽化した社会教育施設について、市民の利用に支障がないよう施設整備に取り組んでいく必要があります。

基本的な考え方をまとめた「今後の市民館・図書館のあり方」について、市民館及び図書館事業のさらなる充実・進展を目指し、計画策定に向けて取組を進める必要があります。

教育改革推進会議における意見内容

川崎市はSDGs未来都市に選定されており、コロナウイルスとの共生を実現するために、SDGsを中心としたプログラムの生涯学習事業とエンパワーメントを検討する必要がある。

市民館が提供する「場」があることで、市民の生き生きとした活動参加が保障されているので、行政の支援の必要性を感じる。

今後の取組の方向性

地域課題や市民ニーズに対応した社会教育振興事業の継続について、引き続き、自発的・主体的な学びや活動への支援を基礎としながら、学習の機会や情報の提供を充実させ、持続可能な社会をめざして地域課題や生活課題の解決に向けた学びと活動を促進し、市民活動の活性化を目指します。

特別教室の活用促進を図るため、令和元年度から開始した「Kawasaki教室シェアリング」による市民ニーズの掘り起こしを引き続き進めながら、より多くの方々に活用いただけるような新たな利用方法について、従来とは異なる新たな仕組みづくりも含め、検討・取組を進めていきます。

労働会館を活用した川崎区の市民館については、特定天井に関する取り組みを踏まえ、令和2年度に基本計画を策定するとともに、実施設計及び管理運営計画の策定に向けた取組を着実に進めます。

新宮前市民館・図書館については、令和2年度に基本計画を策定し、基本・実施設計及び管理運営計画の策定などの取組を着実に進めるとともに、教育文化会館の再編等の老朽化した社会教育施設についても、関係局と連携した施設長寿命化の計画的な推進や、適切な維持補修により生涯学習環境の整備・充実に向けた取組を進めます。

「今後の市民館・図書館のあり方」について、市民館・図書館が、地域の中の生涯学習施設としての機能を最大限に発揮しながら、市民の生涯を通じた学びと成果を生かした地域での活動を促進し、学びと活動を循環させることにより、持続可能な社会の実現に向けた「人づくり」や「地域づくり」がされるよう、令和2年度の策定に向けた検討を進めていきます。

施策1	自ら学び、活動するための支援の充実				
概要	市民団体、大学等と連携しながら、市民が自ら学び、学んだ成果を地域づくりや市民活動に活かす社会教育を展開し、いわゆる「知縁」による新たな絆やコミュニティを創造するとともに、地域の生涯学習の推進において中核的な役割を担うことができる人材の育成に取り組みます。				
事務事業名	社会教育振興事業 ★				
担当課	生涯学習推進課	関係課			
事業の概要	教育文化会館・市民館・分館において、市民の学習や活動の支援、社会教育を担う団体やボランティアの育成、市民のネットワークづくりなどを行うとともに、学習の成果や地域の人材資源の活用を図り、市民の力による地域の教育力とまちづくり力の向上を図ります。				
事業計画	H 3 0 (2018)	R 1 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	
	子育てや、平和・人権・男女平等など、さまざまな学習の場の提供による、市民の「学ぶ力」育成 ・継続実施				→
	市民の学びにより得た知識や経験等を身近な地域で活かす市民講師の養成・活用 ・継続実施				→
	市民提案・協働による課題解決型事業の推進、地域の生涯学習をコーディネートする人材の育成 ・継続実施				→
実施状況					
①市民館において、平和・人権学習や男女平等推進学習等、地域の課題や市民生活を学ぶ社会教育事業を実施することができました。 ②市民エンパワーメント研修でのボランティア育成など、市民が学びにより得た知識や経験等を活かす活動を促進することができました。 ③市民自主学級や市民自主企画事業などにより、市民提案・協働での課題解決型事業の推進を行うことができました。					
課題と今後の取組					
①市民館を拠点として多様な社会教育事業を引き続き実施します。 ②地域資源の活用や多様な主体との連携により、地域の中に身近な学びの場を増やす取組を進めていきます。 ③効果的なグループ育成や活動支援の方策を検討するとともに、個人の学びの成果を地域に還元する仕組みの構築に取り組んでいきます。					

事務事業名	図書館運営事業			
担当課	生涯学習推進課	関係課		
事業の概要	市民の読書要求に応え、市民の課題解決に役立つために、多様な図書館資料を収集・提供するとともに、レファレンスの向上、インターネットやICTの活用、関係機関や学校図書館との連携促進などを図りながら、効率的・効果的な図書館運営をめざします。			
	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
事業計画	多様な市民ニーズに応えるための資料の充実・タイトル数の確保 ・資料数：全85.5万タイトル	・資料数：全86万タイトル	・資料数：全86.5万タイトル	・資料数：全87万タイトル
	地域資料や課題解決等に役立つ広範な資料の収集・提供 ・継続実施	・電子書籍等の導入検討		
	ICT機器を活用した効率的な図書館の運営及び維持管理 ・継続実施			
	図書館総合システムの円滑な運用 ・機器更新	・円滑な運用及び次期システムの検討		
	来館困難者や高齢者、障害者等への支援などサービス向上の推進 ・継続実施 ・返却ボックスの新設及び検討の継続	・検討の継続		
	学校図書館への支援及び連携 ・授業支援図書セット等の貸出継続実施 ・学社連携会議の継続実施			
実施状況				
<p>①多様な市民ニーズに応えるため、地域資料や課題解決等に役立つ広範な資料を収集するなど図書資料の充実を図り、87万タイトルを確保するとともに、資料の提供を行いました。</p> <p>②図書館総合システムの円滑な運用により、効率的な図書館の運営及び維持管理を行いました。また、次期システムの検討に向けた業務の整理等を行いました。</p> <p>③来館困難者や高齢者、障害者等への支援として、自動車文庫(市内21ポイント)の運行や対面朗読、郵送貸出サービスの実施を行いました。また、返却ボックスを1台JR武蔵中原駅に増設し、サービスの向上を図りました。</p>				
課題と今後の取組				
<p>①多様な市民ニーズに応えるための資料の充実・タイトル数の確保について引き続き実施していきます。</p> <p>②地域資料や課題解決等に役立つ広範な資料の収集・提供については、電子書籍等の導入について引き続き検討します。</p> <p>③ICT機器を活用した効率的な図書館の運営及び維持管理については、継続的に実施していきます。</p> <p>④図書館総合システムの円滑な運用については、次期システムの検討を行います。</p> <p>⑤来館困難者や高齢者、障害者等への支援などについては、返却ボックスの新設等、サービス向上について検討を継続していきます。</p>				

施策2	生涯学習環境の整備
概要	学校施設の有効活用を促進するとともに、市民の主体的な学びを支援するため、社会教育施設等の環境整備の推進や、さらなる市民サービスの向上に向けた管理・運営手法の検討など、生涯学習環境の充実を図っていきます。

事務事業名	生涯学習施設の環境整備事業 ★			
担当課	生涯学習推進課	関係課		
事業の概要	市民の生涯学習や地域活動の拠点として、身近な学校施設を有効活用するとともに、社会教育施設等の環境整備を図るなど、市民の生涯学習環境の充実を図ります。			
	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
事業計画	市民活動の拠点としての学校施設（校庭、体育館、教室等）のさらなる活用の推進 ・さらなる活用の推進に向けた方策の検討 老朽化した社会教育施設等の環境整備 ・維持補修等の継続実施 既存施設（労働会館）を活用した川崎区における市民館機能の整備推進 ・施設整備に向けた基本構想作成 社会教育施設のより一層の市民サービス向上をめざした効率的・効果的な管理運営体制の構築 ・検討の継続	・検討結果に基づくモデル事業の実施・検証 ・施設整備基本計画作成 ・検討結果に基づく取組の推進	・基本・実施設計 ・改修工事 ・教育文化会館除却設計	→ → →

実施状況

- ①校庭144校、体育館166校、特別教室136校において学校施設を開放するとともに、特に利用の少ない特別教室の活用を推進するためのプロジェクト「Kawasaki教室シェアリング」をスタートし、学校利用のアイデア出しを行うイベントや、学校施設をワーキングスペースとして利用する試験的な取組などを実施しました。
- ②宮前市民館・図書館の鷺沼駅周辺への移転・整備に向けた市民意見聴取等の取組を推進し、「新しい宮前市民館・図書館に関する基本的な考え方」を策定しました。
- ③労働会館を活用した川崎区の市民館については、全庁的な特定天井に関する取組と併せて整備を実施することとなったため、庁内調整及びスケジュールの見直しを行いました。
- ④社会状況の変化や多様な市民ニーズに対応するための「今後の市民館・図書館のあり方」の策定に向けて、基本的な考え方をまとめました。

課題と今後の取組

- ①事業を継続的に実施しながら、今後も市民の学び舎活動の場の確保を図ります。
- ②地域コミュニティの拠点としての学校施設の有効活用を推進していきます。
- ③新宮前市民館・図書館の移転・整備に向けた取組を進めるとともに、教育文化会館と労働会館の再編等、老朽化した社会教育施設について、市民の利用に支障がないよう施設整備に取り組んでいきます。
- ④労働会館を活用した川崎区の市民館については、全庁的な特定天井に関する取組と併せて整備を実施することとし、令和2年度中に基本計画を策定します。
- ⑤社会状況の変化や多様な市民ニーズに対応し、市民館及び図書館事業の充実・進展を目指すため「今後の市民館・図書館のあり方」を策定する中で、最適な管理運営手法等について検討を行います。

事務事業名	社会教育関係団体等への支援・連携事業			
担当課	生涯学習推進課	関係課		
事業の概要	生涯学習団体や主体的に活動する社会教育関係団体への支援を行うことで、市民の生涯学習の機会の充実を図ります。			
	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
事業計画	生涯学習財団、社会教育関係団体への支援による学習機会の充実 ・財団補助対象事業参加者：12,700人以上			→

実施状況

生涯学習財団が、本市の生涯学習の推進のために、全市的・広域的視点から市民の課題解決に向けた生涯学習の支援を行うとともに、多様な主体と連携し、市民の誰もが、いつでも、どこでも自主的に生涯学習に取り組める環境づくりを進められるよう補助金の交付や助言等を行いました。生涯学習財団の補助事業への参加者数は12,722人です。

課題と今後の取組

引き続き、生涯学習財団や主体的に活動する社会教育関係団体への支援や助言等を行うことで、市民の学習機会や場所の充実を図ります。